

# あいち農産物生産流通レポート

平成26年7月号

情報サロン		
・夏向けスプレーギク「スプレー愛知夏1号」を開発 (農業総合試験場) .....		1
東日本情報		
・加工・業務用野菜流通の動向 (東京事務所) .....		2
西日本情報		
・タイ・バンコクでマーケティング調査を実施しました (食育推進課) .....		5
フラワーページ		
・「花きの振興に関する法律」について (農林水産省生産局) .....		9
青果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場) .....	1	1
・名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し .....	1	2
花き		
・切花・鉢花の7月の見通し(県内市場) .....	2	4
輸出入		
・主要農林水産物の輸出入実績(2014年4月) .....	2	8
関連指数 .....		2 9

今月「地域トピックス」はありません。

内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6421

## 夏向けスプレーギク「スプレー愛知夏1号」を開発

農業総合試験場

### 1 はじめに

スプレーギクは全国で2億5千万本出荷される重要な花き品目で、本県はその3分の1を占める全国一の産地です(2013年産、農林水産統計)。県内では、白、黄、ピンク色など様々な花色の品種が主に施設内で周年生産されています。7~9月の高温期に栽培される夏向け品種は、暑さの影響を受けにくく、開花遅れのない特性を持つことが重要ですが、こうした「耐暑性」の強い既存の黄色品種には、花弁が横に倒れる、芯の黄化が早いといった短所があり、生産者から耐暑性と花の美しさを兼ね備えた黄色品種の育成が求められています。

愛知県農業総合試験場は、全国農業協同組合連合会との共同研究で夏向け新品種の開発に取り組み、2007年から6年間をかけて耐暑性と花の美しさを兼ね備えた黄色品種「スプレー愛知夏1号」を開発したので紹介します。

### 2 開発の経緯

2007年に耐暑性の強い系統と花の美しい系統との交配を行い、400粒の種子を得ました。08年に生育した352系統の中から20系統を一次選抜、09年に4系統を二次選抜しました。10、11年にこの4系統について愛知県の生産者の圃場で小規模な試作をし、12年の大規模試作を経て、耐暑性と花の美しさに特に優れた1系統(07-SZ-16-18)を選抜しました。この系統について、全国の主要市場に切り花を提供して評価を依頼した結果、既存の耐暑性黄色品種よりも花が美しいと好評を得ました。この系統を「スプレー愛知夏1号」として13年8月に品種登録出願を行い、14年1月に出願公表(28430号)されました。

### 3 品種の特徴

「スプレー愛知夏1号」は、鮮やかな黄色の花弁と緑色の芯のコントラストが美しく、花弁は斜め上を向き、開花が進んでも横に倒れないことから、美しい形の花を長く楽しむことができます。切り花1本に10輪以上の花が咲き、茎や花首の伸びが良いので、すっきりとした形をしています。花持ちは、既存品種と同程度で2週間程度観賞できます。

7~9月の高温期でも電照打切りから開花までの日数は46~49日と短く、安定して開花し、出荷することが可能です。

### 4 流通について

今年の夏から「あゐむりゾート」の流通名で出荷が始まります。2016年には年間50万本の出荷を目標としています。



スプレー愛知夏1号

## 加工・業務用野菜流通の動向

近年、単身世帯の増加や高齢化、共稼ぎ等の生活スタイルの多様化に伴って、食の外部化が進展し、加工・業務用野菜の需要が高まっています。こうした需要に対応するためのセミナーが6月20日(金)に農林水産省主催で開催されましたのでその結果を報告します。なお、本セミナーは一般傍聴者定員150名のところ400名近く出席していました。

### 1 加工・業務用野菜をめぐる情勢と展望

東京聖栄大学の藤島教授と農林水産政策研究所の小林上席主任研究官が講演されました。テーマは「国産野菜の特徴と加工・業務需要への対応課題」と「加工・業務用野菜をめぐる情勢と展望」でした。

野菜の輸入が増えた背景には、1985年からの10年間で急激な円高が起り円の価値が3倍(1米ドル240円 80円)になったことと国内野菜生産量が1988年から低下したことがあると結論づけられました。その後は異常気象等で国内生産量が低下すると輸入量が増えていました。また冷凍野菜は1985年から顕著に増加していました。

食における生鮮野菜から加工・業務用野菜への移行は、国内の社会構造の変化と高齢化によって進んできました。2007年の国民栄養調査にある年齢別1人1日あたり摂取熱量をみると20代～60代までの摂取熱量は男女ともに大きな変化はありませんが70代以上では60代よりも男女ともに大きく減少していました。人口が変わらなくても70代以上が増加することで野菜の需要が減少することがわかりました。また50代以上で1人あたりの中食(お総菜等)や外食(レストラン等)の購入額が増えていました。

加工業務向け野菜については、国産生鮮品が560万tで輸入が生鮮品と加工品あわせて300万tくらいと推計されていました。国産の強みはカット野菜と浅漬けでした。また冷凍野菜の国産比率は全体の10%程度でした。

最近の消費者の食の志向は、健康、経済性、簡便化が上位を占めていました。健康は年代が上がるにつれ重視され、経済性と簡便化は若い年代ほど重視されていました。国産品へのこだわりは、全体としては強いが経済性を考えるとこだわらないという結果でした。また外食や中食が消費者から支持されて売れ行きが好調であることから考えると価値のある商品については多少高価でも購入する(プチ贅沢)傾向がありました。



セミナーの様子(農林水産省 佐藤一雄生産局長)

食の外部化は、2012年の（財）食の安全・安心財団の資料によれば、2012年には外食率は36%で1990年からそれほど変化が見られませんでした。中食率は9%で6%増加していました。つまり食の外部化の中心は外食だが、牽引しているのは中食であるということがわかりました。背景には、世帯構成の変化と生活スタイルの変化や多様化、利便性提供型の食料供給（24時間営業の中食外食企業や冷凍食品、カット野菜等）がありました。今後についても食の外部化は緩やかに進展していくものと思われました。

野菜の需要は、野菜の1人1日あたり摂取量では「野菜1日350g」が望ましいとされています。厚生労働省の国民健康・栄養調査結果の概要ではどの年代も未達で若い世代ほど野菜摂取量が少ない、20代で244g(2012年)が問題でした。野菜マーケットの維持拡大を図っていくためには1人あたりの野菜摂取量の拡大に向けた取組が不可欠になってきていました。つまり、野菜の加工業務用需要への対応強化は同時に消費拡大と連動している必要があることが示されました。

## 2 事業者の先進的な取組事例

(1) 産地と実需者を結ぶ立場から株式会社彩喜の木村幸雄氏が「加工・業務用契約栽培及び取引の変化」について講演されました。

木村氏は1999年から加工業務用野菜の産地開発と仕入れを始めました。当初は「加工業務用」という言葉に産地の生産者は引いていたようでしたが、10年間様々な産地リレーを考えて産地育成を行ってました。現在では機械化の進展により、産地規模の拡大や輸送方法の改善が行われていました。具体的には、北海道にあるJA鹿追町のキャベツ産地は、育苗センターを所有し、定植機や収穫機で作業を行い、トラックへの搬送は鉄コンテナを利用し、出荷はJRコンテナを利用していました。鉄コンテナはレンタルでした。

今考えていることは、モーダルシフト。野菜を輸送するトラックの人手不足対策として早急に取り組む必要があるとのことでした。

(2) 加工流通に関わる立場から東京デリカフーズ(株)の有井雅幸氏が「加工・業務用野菜の取組について」について講演されました。

東京デリカフーズ(株)は、「Farm to Wellness 農場から健康を考えましょう」に基づいてサプライチェーン、バリューチェーンをどう構築していくかがテーマになっていました。

野菜に対する消費者のニーズは、安全である、鮮度が高くて美味しい、健康、の3つであると考えていました。野菜の評価基準「デリカスコア」を作成し、安全性を産地ではGAPで、カット工場ではISO22000で担保していました。他にもビタミンCや抗酸化力など中身成分や鮮度、品温等流通についても評価されていました。これを基に産地の栽培技術やカット野菜の包装保管技術などの向上につなげていました。

現在は、機能性成分を高含有する農産物等の開発に携わったり、「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業」に応募し、トマトの中身成分を揃えるための研究に参加していました。また次世代植物工場の専門委員会の構成員にもなっていました。

(3) 食品製造事業者の立場からキューピー(株)の藤本幸佳氏が「加工業務用野菜への取組に求められる方向性」について講演されました。

キューピー(株)は、20数年前から野菜に関わる事業を行い、カット野菜と総菜と弁当を取り扱っていました。

タマネギに関しては、加工用タマネギは需要が増えており、中国からの輸入依存度が高い状況にありました。国内産の生産量を増やすために、品種開発・産地・一次加工で加工特性のあるタマネギ品種「カロエワン(北交1号)」を育成中でした。この品種は収量が従来の5割増し、縦長のため加工作業時に持ちやすく作業効率が向上、天地切断部位径が小さく歩留まりが10%程度向上、わかりやすい形状が市場流出防止、が期待されており、またタマネギの産地化を図る場合には、収穫後の強制乾燥施設が必須要件になるとのことでした。

今後については、手に取りたくなるような楽しい商品作りを野菜の冷蔵施設、一次加工施設、食品工場、抽出工場等消費地から100km圏内に造成してコンソーシアムを構築、コストが安いからでなく商品評価で展開していきたいとのことでした。

(4) 消費者に近い小売事業者の立場からイオンリテール(株)の室井英男氏が「イオンリテールにおける取組事例の紹介」について講演されました。

食事の手間に関しては、生活スタイルの変化に対応するため、「下ごしらえ」と「調理する」時間を省く、つまり「そのまま食べる」と「下準備ができてる」商品に心がけていました。青果売り場では「電子レンジでブロッコリーがゆであがる」などの手間を少しかける商品を30種類程度提供しているとのことでした。

カット野菜は、2010年から伸び始めました。サラダではマヨネーズを使うよりも生鮮野菜のほうが伸びていました。

加工野菜には、「素材そのものの美味しさを一定期間どう保持するか、お客様の食生活変化に対応できる便利な商品開発、リーズナブルな価格提供(+感動、栄養成分、倫理観)、お客様の知りたい情報を提供、」などの課題があり、プライベートブランド化も含めて販売を考えているようでした。

野菜の消費量は、人口の年齢層の割合によって変動する、生活スタイルの変化で中食購入者が増えている現状があることがわかりました。事業者はそれら変化に対応して取り組まれており、国の施策を上手に活用しているように感じました。厚生労働省が発表した平成24年国民健康・栄養調査結果の概要によれば、野菜摂取量の平均値で愛知県は男女とも全国第47位でした。野菜の消費拡大は今後も大きな課題になると思いました。

## タイ・バンコクでマーケティング調査を実施しました

愛知県では、県産農林水産物等の海外における販路開拓を支援しています。今回は、県産農林水産物等の輸出先として有望と考えられるタイの首都バンコクにおいて、マーケティング調査を実施しましたので、その結果の概要を紹介します。なお、本年9月には、バンコクの百貨店において販売促進会の開催を予定しています。



バンコクのクロントゥーイ市場

### 1 タイの基本情報

タイは、国土面積が約 51.4 万km<sup>2</sup>（日本の約 1.4 倍）で、人口約 6,600 万人です。民族は、大多数がタイ族で、宗教は 95%が仏教となっています。

国民一人当たり GDP は 5,390 ドル（2012 年）で、日本の約 11.8%となり、アセアン域内ではシンガポール、ブルネイ、マレーシアに次いで第 4 位です。経済は堅調に推移しており、失業率が 1%を切る状況であることから、自動車産業をはじめ人手不足が深刻となっています。

タイの高所得層はバンコクに集中しており、月当たり所得 50,001 バーツ以上（1



バンコクの高級百貨店「エンポリアム」

バーツ = 約 3 円）は全国平均で 3.8%であるのに対し、バンコク都市圏では 12.8%となっています。

### 2 食習慣など

共働き世帯が多く、所得も高いことから、あまり家庭料理をせず、外食・中食の頻度が高くなっています。日本料理は、見た目のきれいさや、健康的というイメージから人気が高く、日本料理店も増加しており、現在、バンコクに 1,200 軒以上あると言われています。

### 3 日本産食品の流通経路

タイに輸出された日本産食品は、タイの輸入業者が受け取り、小売店や日本料理店等に販売されます。加工食品については、タイ食品医薬品局（FDA）の輸入許可が必要で、その申請はタイの輸入業者が行います。そのため、タイの輸入業者との提携が必要となってきます。

### 4 調査結果の概要

ジェットロ・バンコク事務所や日系食品輸入業者等から、日本産食品の取扱状況等について聞き取り調査を行いました。また、現地百貨店等において、店頭調査を行いました。それらの結果の概要は以下のとおりです。タイ・バンコクへの食品輸出の参考にしてください。

#### (1) ジェットロ・バンコク事務所

バンコクの日本料理店の状況

- ・バンコクの日本料理店は、高級路線と大衆路線に分かれてきている。高級路線の中から「最高級」路線の店が現れている。
- ・大衆路線の日本料理店では、日本産食材は高いため、ほとんど使われていない。
- ・タイでは珍しいもの（かまめし、ゆば）を提供する日本料理店に人気がある。

日本産食品の普及の可能性

- ・日本産の果物は、タイで売れている。気候や風土の違いにより、タイで生産できない果物は特によい。
- ・日本産の果物は見栄えが良いため、贈答用として富裕層等が購入しているようである。
- ・タイではイチゴが生産されているが、味は日本産の方がおいしいと思う。
- ・果物の場合、料理店等の購入量は少ないので、百貨店での販売の方が有望である。
- ・タイに日本の加工食品を輸出する場合、タイの業務筋への販売を狙う事例が多い。ただし価格競争が始まっており、高すぎると売れない。
- ・タイ国内で加工食品を生産する日系メーカーも増えており、輸入品と現地生産品との競合が発生している。



百貨店の果物陳列棚でリンゴを販売中

## (2) 日系食品輸入業者

### A社

- ・果物は、昔は「日本産」というだけで売っていたが、今は産地や価格で選ばれるようになった。
- ・鮮度が大切な農産物は航空便で運んでいる。航空便は、国内出荷+1日くらいで、タイで販売できる。
- ・料理店等の顧客の要望に添った商品のほか、売れそうと思われる商品を輸入し、販売している。

### B社

- ・ある百貨店がサラダバーを始めたところ大ヒットし、ほかの店舗でもサラダバーが導入された。
- ・バンコクには中食文化があるため、弁当や総菜が食品売場で販売されている。これらを買って家に帰り、家庭で食べている。
- ・菓子については、大手日系メーカーによるタイでの現地生産品が安く売られている。一方、日本生産品も高い価格で販売されている。



百貨店の調味料コーナー

## (3) 日本料理店

- ・食材は、地元産が手に入る場合は地元産を使っている。
- ・みりんや味噌などの調味料は、タイで製造されたものもあり、高い日本からの輸入品をわざわざ使う必要はないと考えている。タイのみりに砂糖を加えれば、味を調えることができる。
- ・魚介類や野菜などの食材については、こだわる必要があると考えている。
- ・日本産の野菜では、高糖度トマト、トウモロコシ、アスパラガス(甘みが強いもの)、ソラマメ、ダイコン(甘みが強いもの)、エディブルフラワー等が、タイで受け入れられると思う。
- ・タイ産に比べて味が濃かったり、甘かったりする日本産の野菜は、受け入れられると思う。



タイの日本料理店の冷やし中華

#### (4) 現地百貨店等

日本産食品を取り扱っている店舗を中心に、以下の店舗を調査した。

- ・ スクンビット地区（日本人が多く居住する地区）
  - エンポリウム（現地資本の高級百貨店）
  - フジスーパー（日本産食品の取り扱いが多いスーパーマーケット）
- ・ サイラム地区（バンコク随一のショッピングエリア）
  - サイラム・パラゴン（現地資本の高級百貨店）
  - セントラル・ワールド（現地資本の高級百貨店）
  - セントラル・チットロム（現地資本の高級百貨店）
  - 伊勢丹バンコク（バンコク唯一の日系百貨店）

#### 日本産食品の販売 状況

- ・ 日本産食品については、果物の取り扱いが多かった。
- ・ 日本産の果物は、贈答用の箱に入れて販売されている店舗もあった。



サイラム・パラゴンの外観（左）とその食品売場（右）

- ・ 野菜はタイ産がほとんどで、日本産はあまり見られなかった。
- ・ 加工食品は、日本からの輸入品も見られたが、現地で生産された味噌、納豆、しょう油等も多く販売されていた。
- ・ 菓子は、日本からの輸入品と現地生産品とが販売されていた。
- ・ フジスーパーは日本産食品の取り扱いが多く、日本からの輸入品が数多く見られた。

#### (5) クロントゥーイ市場

- ・ バンコクの巨大な生鮮食料品市場。
- ・ 果物（バナナ、ミカン、リンゴ、パイナップル、メロン、ドリアン、ランブータン等）、野菜（キャベツ、パクチー、カボチャ、タロイモ、トマト等）、コメ、肉（鶏肉、豚肉）、鶏卵、魚介類等、数多くの食材が売られていた。
- ・ 葉菜類は、概ね 30 パーツ前後で販売されており、安くて新鮮そうだった。
- ・ 果物は、種類は多いが、大きさ・形はふぞろいのものが多かった。また日本のものに比べて小さいものがあった。

## 「花きの振興に関する法律」について

平成26年6月20日、第186回通常国会において、議員立法による「花きの振興に関する法律」が成立しました。この法律は、花き産業及び花きの文化の振興を図るため、国及び地方公共団体において花きの生産者の経営の安定、花きの加工及び流通の高度化、花きの輸出の促進、公共施設及びまちづくりにおける花きの活用等の措置を講じ、もって花き産業の健全な発展や心豊かな国民生活の実現に寄与することを目的とするものです。条文については、農林水産省のHPで公表予定ですので、そちらをご参照下さい。

### 1. 経緯

花き産業の振興を目的とする法律の制定は、昭和62年に自民党でフラワー産業議員連盟が創立された当時から、花き産業関係者から強い要望があり、平成24年5月に同議連が再決起されたことを機に、関係者の永年の悲願であった法律の制定に向けた動きが加速しました。平成25年9月に、自民党農林部会野菜・果樹・畑作物等対策小委員会の中に、葉梨康弘議員（畑作小委委員長）を座長とする「花き振興法案（仮称）検討作業チーム」が設置され、中谷元議員（農林水産戦略調査会長）、齋藤健議員（農林部会長）、河村建夫議員（フラワー議連会長）等がメンバーとなり、法案の検討が進められ（10月から座長は坂本哲志議員に交代）、与野党調整を経て、6月4日、（衆）農林水産委員長提案により、第186回通常国会に提出されました。

### 2. 法律のポイント

法律は二十一条で成り立ち、本法律でいう「花き」とは、「観賞の用に供される植物をいう。」（第2条）と規定され、切り花や鉢物のみならず、花木類、球根類、花壇用苗もの、芝類、地被植物類についても、法律の対象とされました。まず、農林水産大臣は花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針を策定し、それに即して、都道府県が振興計画を定めるよう努めなければならないと

されており、国は、振興計画に基づく施策の円滑な実施のため、援助するものとしています。

また、国及び地方公共団体は、花き産業に対する施策として、生産者の経営の安定や生産性・品質の向上、加工及び流通の高度化、輸出の促進、研究開発の推進等（第6条～第15条）を、花きの文化に対する施策として、公共施設における花きの活用の推進、「花育」の推進、花きの伝統の継承等（第16条）を講ずるとともに、関係行政機関で構成される花き活用推進会議を設置し、花きの振興に関し一体的かつ効果的な推進を図ることとしています。加えて、農林水産大臣の認定を受けた研究開発事業（花きの新品種の育成及び増殖の技術の高度化に関する研究開発を行う事業であって、我が国の花き産業の国際競争力の強化に資するもの）計画に従って、品種登録出願に関する出願料及び登録料を軽減又は免除することができるものとしています（第11条～第13条）。これにより、流行の移り変わりの激しい花きにおいて、国産シェアの奪還と輸出拡大に向け、オリジナル品種の開発加速化が期待されます。

### 3．今後の展開方向

農林水産省では、この法律の理念の具体化に向け、平成26年度より花き単独予算である「国産花きイノベーション推進事業」を措置しており、本年4月から43都道府県において関係者が一堂に会する地域協議会が設立され、国産花きの生産・供給体制の強化、輸出や需要拡大のための取組がスタートしています。「花き元年」とも呼べる今年、法律と予算が車の両輪となり、今後各地域において、花き産業及び花きの文化の振興に向けた取組が一層進められることが期待されます。

# 愛知産青果物の動向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内  
 や や : ± 3 ~ 5 % 台  
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台  
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

## 名古屋市中央卸売市場（品目：アールスメロン）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
25年実績	1,788	322 (18%)	744	472	静岡 (38%) 熊本 (19%) 高知 (13%)
26年見通し	1,600	-	750	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知産の中心は、産地は東三河地域。天候は良好で、生育も順調な見込みで、大玉傾向となるであろう。</p> <p>しかし、作付面積の減少で入荷量が減少することも予想され、やや単価高となる可能性もある。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並みの見込み。</p>			<p>全国的に作付面積は減少傾向にある。品種は産地ごとに様々であり、大きな変化は見られない。嗜好の変化はなく、また消費者の低価格志向により、販売環境は厳しいままである。</p> <p>生育は順調で、大きさ、味も文句ないので、試食宣伝などを通して、贈答用以外での一般消費にも期待したい。</p>		

## 東京都中央卸売市場（品目：とうがん）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
25年実績	748	193 (26%)	105	143	神奈川 (26%) 茨城 (20%) 静岡 (18%)
26年見通し	710	-	110	-	
概 要 と 見 通 し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>昨年は、主要産地が前年より増量だったため、入荷量は前年より大幅に上回り、価格はやや下回った。今年も本県をはじめ神奈川、茨城、静岡などからの入荷となり、沖縄の入荷は終盤を迎えている。</p> <p>本県産の入荷開始は6月2日で、6月下旬から8月までが入荷のピークとなる。生育は各産地とも順調で、潤沢な入荷が期待できるが、神奈川では小型のとうがんが大幅に減少する見込みである。</p> <p>全体の入荷量は前年よりやや下回り、価格は安値であった前年をやや上回る見込み。</p>			<p>愛知県産については品質に問題なく、これまで通り、形や色を揃えるなど高品質の保持に努めて欲しい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し

名古屋市中央卸売市場

6月13日現在

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜 計	21年	30,896	201	194	211	199	長野 28%
	22年	30,577	229	221	236	232	北海道 11%
	23年	29,793	219	230	222	210	愛知 10%
	24年	30,327	204	208	213	198	兵庫 8%
	25年	29,589	229	235	228	224	
	5ヵ年平均	30,236	216	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	29,700	216	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>主な産地は長野、北海道、愛知。産地によっては、梅雨の影響を受けることも予想されるが、いずれにしても今後の天候次第で生育等も変わると予想される。 入荷量は前年並みで、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							
だい こ ん	21年	1,982	83	86	83	81	青森 49%
	22年	1,664	90	80	105	90	北海道 38%
	23年	1,688	95	94	98	99	岐阜 12%
	24年	1,820	76	81	80	75	長野 1%
	25年	1,745	91	118	83	83	
	5ヵ年平均	1,780	87	92	89	85	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	1,750	90	100	90	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>主要産地は青森、北海道。青森、北海道ともに、雨不足の影響があり、今後の入荷量に影響が出るおそれがある。 入荷量、価格ともに前年並みの見込み。</p>							
に ん じ ん	21年	1,721	148	135	149	159	青森 65%
	22年	1,526	203	199	201	208	北海道 29%
	23年	1,785	117	141	110	107	中国 2%
	24年	1,603	163	241	166	120	岐阜 1%
	25年	1,672	124	157	115	105	
	5ヵ年平均	1,662	150	173	147	138	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	1,600	146	180	130	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>産地は青森が主体となる。雨不測の影響で生育は良くなく、上旬までは入荷量も減少するであろう。中旬以降は、北海道も入り持ち直す見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							

# 東京都中央卸売市場

6月25日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜	21年	126,213	219	216	222	220	群馬 14% 長野 14% 茨城 12% 北海道 8% (愛知産比率 1%)
	22年	122,704	237	226	245	242	
	23年	118,688	238	250	237	228	
	24年	123,363	217	224	215	212	
	25年	127,083	250	267	251	234	
計	5カ年平均	123,610	232	-	-	-	前年及び本年の入荷量・価格の動き
26年見通し	128,000	240	-	-	-		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
群馬、長野の高冷地と東北産地からの入荷が本格化する時期となる。各品目とも5月は干ばつの影響を受け生育遅れの傾向だったが、ここにきて回復してきている。入荷量は品目によって多少あるものの総体では前年並で、価格は高かった前年をやや下回る見込み。							
だいこん	21年	9,226	78	87	74	74	北海道 55% 青森 38% 岩手 3% 千葉 1% (愛知産比率 0%)
	22年	8,799	90	81	103	86	
	23年	8,212	93	95	89	95	
	24年	8,703	70	76	68	68	
	25年	8,952	90	117	78	80	
計	5カ年平均	8,778	84	91	82	81	前年及び本年の入荷量・価格の動き
26年見通し	8,900	84	85	83	84		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
青森に加えて北海道が本格出荷する。北海道、青森とも生育初期は干ばつの影響で生育が遅れたが、その後の降雨により現在は回復傾向。青森は生育が順調なことから太物が中心となる見込み。入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回るが5カ年平均並の見込み。							
にんじん	21年	5,909	137	118	140	152	青森 43% 千葉 30% 北海道 23% 中国 2% (愛知産比率 -%)
	22年	5,514	181	170	184	189	
	23年	6,145	111	118	104	112	
	24年	6,291	149	185	152	115	
	25年	6,753	124	137	117	115	
計	5カ年平均	6,122	140	146	139	137	前年及び本年の入荷量・価格の動き
26年見通し	6,450	125	123	127	125		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉に加えて、青森、北海道からの入荷が増える。青森、北海道とも生育初期は干ばつの影響で生育が遅れたが、その後の降雨により回復傾向。千葉は生育順調で品質も良好。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。							

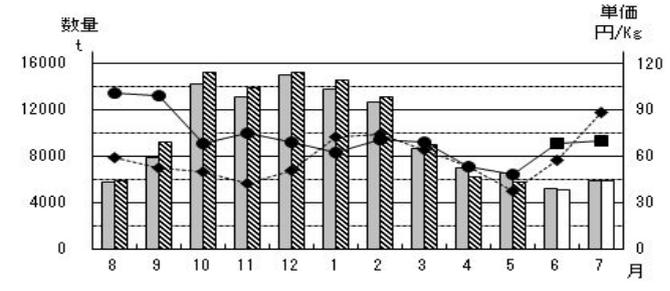
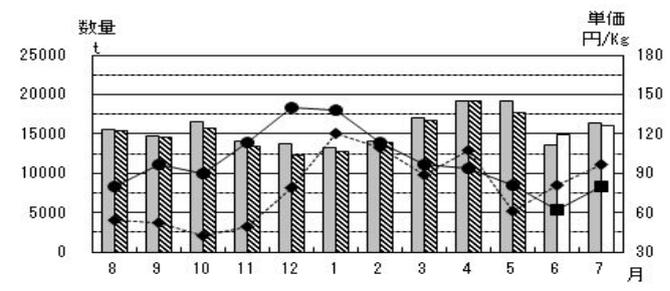
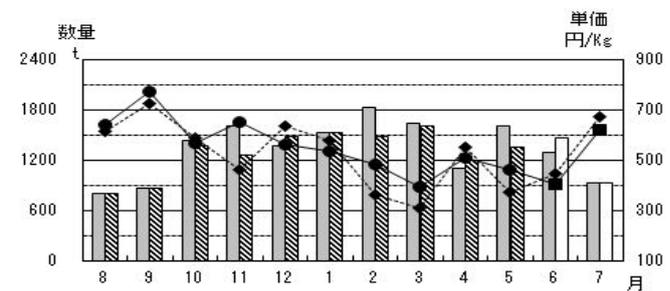
名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほう き さい	21年	1,810	68	59	72	74	長野 91%
	22年	1,956	63	51	72	70	群馬 9%
	23年	1,919	58	67	57	60	愛知 0%
	24年	1,865	50	64	51	51	岐阜 0%
	25年	1,529	84	79	83	107	
	5ヵ年平均	1,816	64	63	66	71	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	1,600	70	70	70	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		産地の中心は長野。適正な生産はされるものの、1/4カットが主流となり、流通量は減少する見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。					
キャ ベ ツ	21年	3,853	69	71	68	67	群馬 45%
	22年	3,792	89	77	100	91	長野 33%
	23年	4,096	95	117	101	75	茨城 14%
	24年	4,259	57	61	57	59	
	25年	3,839	105	111	98	108	
	5ヵ年平均	3,968	83	87	84	79	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	4,000	80	90	80	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		主要産地は群馬、長野。昨年は雨不足の影響があったが、今年は順調な生育で、入荷量も回復する。そのため、価格も落ち着くであろう。 入荷量は多かった前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。					
ほう れ ん そ う	21年	274	571	520	572	622	岐阜 86%
	22年	202	719	636	771	777	茨城 4%
	23年	193	687	684	695	689	長野 3%
	24年	226	600	622	576	598	愛知 2%
	25年	204	702	871	646	621	
	5ヵ年平均	220	649	656	645	657	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	210	670	720	680	620	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		産地の中心は岐阜(飛騨地方)。作況は安定している。ほうれんそうは、雨の影響を受けやすく、入荷量は安定しないが、極端に減少することはないであろう。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。					

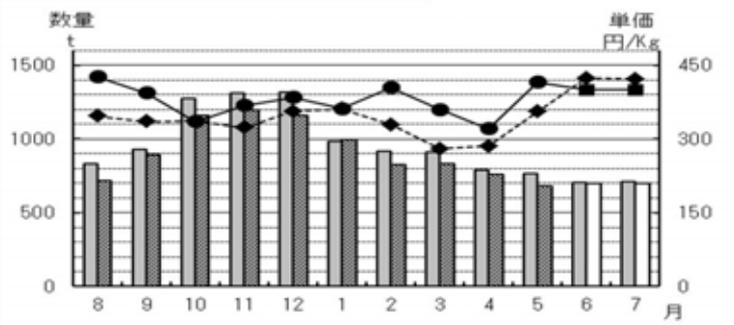
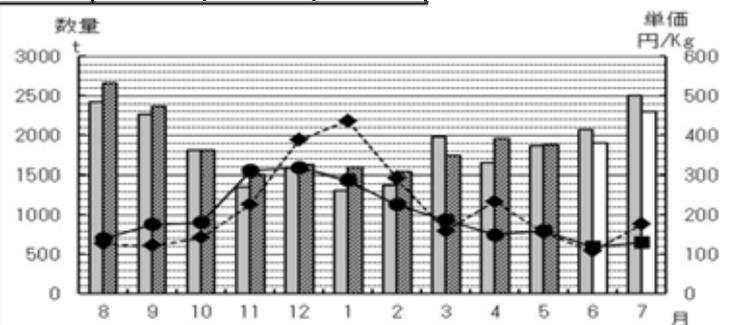
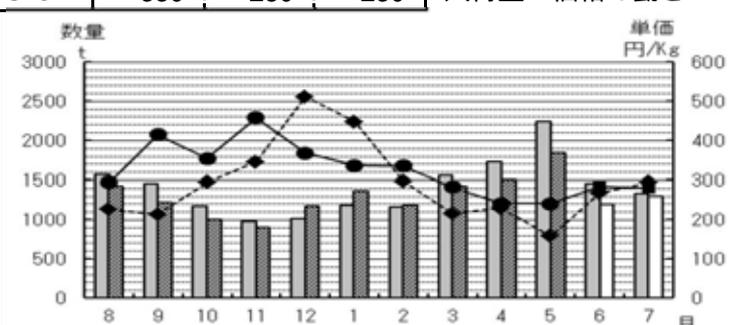
東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうい	21年	5,759	53	47	53	59	長野 90% 群馬 8% 北海道 2% (愛知産比率 -%)
	22年	6,024	59	49	64	65	
	23年	6,005	58	64	56	56	
	24年	5,669	50	55	45	51	
	25年	5,834	88	76	82	107	
	5カ年平均	5,858	62	58	60	68	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	26年見通し	5,800	70	72	70	68	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野からの入荷が中心となり、群馬からも入荷する。両産地とも5月の干ばつの影響で小玉傾向が心配されたが、その後の降雨で解消し生育状態は順調、病害発生もなく品質も良好である。 入荷量は前年並で、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>							
キャベツ	21年	16,628	62	66	61	61	群馬 65% 岩手 14% 長野 5% 茨城 5% (愛知産比率 0%)
	22年	17,760	84	69	91	91	
	23年	14,130	92	106	98	76	
	24年	15,032	51	57	48	49	
	25年	16,344	97	106	86	100	
	5カ年平均	15,979	77	81	77	75	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	26年見通し	16,000	80	82	79	79	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>群馬、岩手からの入荷が中心となる。主力の群馬は干ばつと低温で生育遅れが見られたが、その後の降雨と気温上昇で回復傾向。岩手も出だしは少ないが中旬以降潤沢な出荷が見込まれる。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>							
ほうれんそう	21年	1,246	498	488	514	497	群馬 26% 栃木 22% 茨城 20% 岩手 13% (愛知産比率 0%)
	22年	946	651	547	725	728	
	23年	910	587	548	565	667	
	24年	1,074	513	492	447	618	
	25年	923	671	754	609	646	
	5カ年平均	1,020	584	566	572	631	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	26年見通し	930	620	620	630	610	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>関東高冷地と岩手からの入荷が中心となる。現状、夜温が低く曇雨天の影響で入荷量は不安定だが、7月には量がまとまってくる見込み。7月下旬には生育遅れ分が重なって入荷集中の恐れがある。 入荷量は、前年並で、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	21年	897	384	390	385	379	愛知 28%
	22年	843	433	392	486	434	大分 16%
	23年	746	382	374	415	389	鳥取 10%
	24年	740	384	384	576	598	北海道 8%
	25年	713	422	410	452	424	
	5カ年平均	788	401	390	460	442	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	700	400	400	400	400	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		愛知からは長ねぎ、大分、茨城は白ねぎ、北海道は青ねぎとなる。生育は概ね順調で、安定した入荷が見込まれる。 入荷量は前年並みで、価格は前年をやや下回る見込み。					
レタ	21年	2,111	108	86	117	118	長野 99%
	22年	2,108	144	118	123	186	愛知 0%
	23年	2,275	106	121	113	109	北海道 0%
	24年	2,488	110	113	115	126	
	25年	2,508	177	198	206	153	
	5カ年平均	2,298	130	129	136	138	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	2,300	130	140	130	120	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		産地は、ほぼ100%長野。産地は高冷地へ移る。生育は順調で、玉の大きさは2L等大玉がメインとなる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。					
きゅう	21年	1,287	235	207	245	255	長野 57%
	22年	1,540	236	266	263	191	北海道 16%
	23年	1,359	296	318	291	283	愛知 5%
	24年	1,404	257	275	255	249	岩手 5%
	25年	1,335	295	331	290	275	
	5カ年平均	1,385	263	280	269	249	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	1,300	280	330	280	230	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		産地の中心は長野。今後は北海道が中心となる。雨不足の影響で、生育が遅れていることもあり、7月上旬の入荷量は少ない見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや下回る見込み。					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ね	21年	4,132	338	360	356	306	茨城 66% 千葉 13% 中国 6% 埼玉 5% (愛知産比率 0%)
	22年	3,902	337	312	403	307	
	23年	3,993	260	259	272	251	
	24年	4,045	274	285	314	228	
	25年	4,003	349	358	377	306	
	5カ年平均	4,015	312	315	344	280	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	26年見通し	4,100	310	315	310	305	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		茨城からの入荷が中心となる。茨城を中心とした関東産は、5月の干ばつで肥大遅れが懸念されたが、その後の降雨で生育は概ね順調、病害の発生も少なく順調な出荷が期待できる。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。					
レ	21年	9,016	104	89	110	111	長野 85% 群馬 10% 岩手 3% 北海道 2% (愛知産比率 0%)
	22年	8,495	145	110	128	189	
	23年	9,501	103	110	102	96	
	24年	9,610	107	100	104	107	
	25年	9,630	186	200	201	157	
	5カ年平均	9,250	129	122	129	132	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	26年見通し	9,400	130	140	130	120	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		長野からの入荷が中心となる。長野の生育は概ね順調で、6月上旬の降雨の影響で大玉傾向である。群馬は夜温が低く玉伸びがよくないが、今後の気温上昇で持ち直す見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。					
き	21年	7,805	214	193	221	226	福島 39% 岩手 12% 秋田 9% 埼玉 6% (愛知産比率 -%)
	22年	8,135	204	240	216	171	
	23年	7,832	266	321	233	257	
	24年	7,868	224	230	212	230	
	25年	7,592	279	280	268	289	
	5カ年平均	7,846	237	253	230	235	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	26年見通し	7,600	260	300	240	240	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		福島、岩手、秋田、埼玉からの入荷が中心になる。現状、福島は雨よけ、無加温がピークを迎えているが、低温で入荷量は微増。東北では干ばつによる遅れがあったが回復傾向。 入荷量は前年並で、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	21年	1,035	230	197	249	252	愛知 33%
	22年	1,025	306	305	336	289	徳島 16%
	23年	1,081	315	327	309	319	山梨 12%
	24年	1,004	300	294	316	300	宮崎 9%
	25年	969	276	333	275	238	
	5ヵ年平均	1,023	286	291	297	280	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	1,000	300	300	300	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知の長なす、山梨の千両なすが入荷する。昨年に比べ全体的に生育は順調で、荷量も回復するであろう。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							
ト マ ト	21年	1,486	276	245	283	296	岐阜 32%
	22年	1,518	285	248	265	335	愛知 22%
	23年	1,342	348	327	359	360	北海道 18%
	24年	1,402	318	325	320	317	三重 9%
	25年	1,247	363	376	375	344	
	5ヵ年平均	1,399	316	301	317	330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	1,300	340	350	350	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
主力産地は岐阜、愛知、北海道。生育は順調で、形も良い。安定した入荷が見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
ミ ニ ト マ ト	21年	300	520	484	503	567	北海道 50%
	22年	334	544	495	553	581	愛知 25%
	23年	292	715	78	756	745	茨城 11%
	24年	349	622	618	614	635	長野 5%
	25年	346	670	673	787	558	
	5ヵ年平均	324	614	482	643	615	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	330	620	650	620	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
主力産地は切り替わり、今後は北海道が中心となる。7月上中旬は平年より少ない出荷となるが、下旬には回復して順調な出荷に向かうと思われる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

「なす」の数値には「べいなす」を含まない。

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)
			上旬	中旬	下旬	
な す	21年	4,958	266	288	240	群馬 29% 茨城 26% 栃木 25% 埼玉 6% (愛知産比率 0%)
	22年	4,866	297	335	250	
	23年	4,716	312	362	282	
	24年	4,346	339	351	317	
	25年	4,390	333	409	302	
	5カ年平均	4,655	309	349	282	
26年見通し	4,100	340	380	340	300	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
<p>関東産地が入荷の中心となる。群馬は雪害の影響で出荷量は少ない見込み。各産地5月の干ばつで生育遅れがみられたが、その後の降雨で回復傾向、着果も良好である。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>						
ト マ ト	21年	8,234	285	254	307	青森 16% 北海道 13% 栃木 11% 茨城 9% (愛知産比率 5%)
	22年	8,292	282	245	328	
	23年	8,002	340	331	320	
	24年	8,874	301	307	295	
	25年	8,167	353	369	343	
	5カ年平均	8,314	312	301	303	
26年見通し	8,400	310	320	310	300	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
<p>青森、北海道の入荷が本格化してくる。東北各産地は天候に恵まれ、生育はおおむね順調。北海道は積極的な入荷が予想されている。関東産は高温乾燥で日焼け果がみられるが、生育は順調。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>						
ミ ニ ト マ ト	21年	1,166	492	462	536	茨城 31% 福島 14% 愛知 10% 北海道 8% (愛知産比率 10%)
	22年	1,176	511	461	483	
	23年	1,040	695	720	689	
	24年	1,434	561	566	591	
	25年	1,606	587	566	683	
	5カ年平均	1,284	569	555	584	
26年見通し	1,700	560				前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
<p>茨城、福島、北海道からの入荷が増えてくる。茨城は作付面積が増加し、7月中旬頃にピークを迎える見込み。北海道は生育順調。本県産は平年並の出荷となるが減少しながら展開となる。 入荷量は多かった前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	21年	507	299	301	286	310	茨城 40%
	22年	504	341	263	414	371	岩手 23%
	23年	426	450	466	442	483	北海道 20%
	24年	480	303	282	355	324	
	25年	398	435	441	516	411	
マン	5カ年平均	463	360	343	396	375	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	400	416	450	400	400	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		<p>主要産地は茨城。次いで東北、北海道が続く。梅雨の影響がどこまで続くかで今後の入荷量にも影響が出てくる。7月前半は入荷量が少ないが、後半は増える見込み。入荷量は前年並みで、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ばいしょ	21年	1,439	191	170	204	199	北海道 38%
	22年	1,556	185	201	204	154	静岡 26%
	23年	1,662	101	118	90	97	長崎 13%
	24年	1,566	89	86	103	86	
	25年	1,536	126	85	166	132	
いしょ	5カ年平均	1,552	137	131	152	132	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	1,500	125	120	140	120	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		<p>主要産地は北海道、静岡、長崎。静岡ものはすでに入荷されており、長崎は7月中旬で終了し、北海道は7月下旬からの入荷となる。今後の雨の降り方で入荷量も変わってくると予想され、安定しない。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並みの見込み。</p>					
たまねぎ	21年	4,193	97	98	110	90	兵庫 68%
	22年	4,004	92	96	86	94	愛知 17%
	23年	3,412	64	63	64	67	佐賀 6%
	24年	3,245	129	131	127	130	北海道 5%
	25年	3,688	82	81	82	85	
ねぎ	5カ年平均	3,708	92	94	94	93	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	3,800	100	100	100	100	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		<p>主要産地は兵庫(淡路島)。次いで愛知。愛知は、7月上旬には終了し、中旬以降は兵庫が中心となる。天候不順で生育も良くなく、小玉傾向となる。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピ	21年	2,104	266	278	236	281	茨城 65%
	22年	2,056	320	233	398	349	岩手 19%
	23年	1,781	409	441	362	422	福島 8%
	24年	2,018	248	220	273	254	青森 3%
	25年	1,911	417	433	474	331	(愛知産比率 - %)
	5ヵ年平均	1,974	332	321	349	327	前年及び本年の
26年見通し	1,950	320	380	340	300	入荷量・価格の動き	
マ ン	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	茨城を中心に岩手、福島などから入荷する。茨城は順調な生育で促成、半促成ともに6月がピークとなり、中旬以降は次第に減少する。岩手は生育順調で露地ものが入荷する。中旬がピークとなる。入荷量はわずかに前年を上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。						
ば れ い し よ	21年	4,976	184	167	189	197	茨城 32%
	22年	5,858	174	183	185	156	千葉 20%
	23年	5,741	102	119	97	90	静岡 19%
	24年	5,473	88	92	90	81	長崎 14%
	25年	5,528	147	129	147	171	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	5,515	139	138	142	139	前年及び本年の
26年見通し	5,500	125	125	125	125	入荷量・価格の動き	
た ま ね ぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	茨城、千葉、静岡、長崎などから入荷する。茨城、千葉は玉伸びもよく大玉傾向。静岡は男爵、メイクインが出るが、生育も安定し順調な入荷が見込まれる。長崎は出荷が前進している。入荷量は前年並みだが、価格は販売が苦戦しており、前年をかなり下回る見込み。						
た ま	21年	8,903	113	104	114	121	佐賀 45%
	22年	9,253	108	104	103	114	兵庫 26%
	23年	8,728	68	71	66	68	香川 7%
	24年	8,312	142	145	139	143	群馬 5%
	25年	9,915	89	86	89	91	(愛知産比率 3%)
	5ヵ年平均	9,022	104	102	102	107	前年及び本年の
26年見通し	9,000	100	100	100	100	入荷量・価格の動き	
ね ぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	佐賀、兵庫を中心に入荷する。佐賀は、前年の豊作安値の影響で作付けが減少したが、これで平年並み。5月に雨が少なくやや小ぶりのM玉中心。兵庫は貯蔵の出荷となり、病虫害等も少なかったため昨年より多い出荷を見込む。入荷量は豊作の前年をかなり下回り、価格も入荷量減のため前年をかなり上回る見込み。						

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬	(愛知産比率)	
果 実 計	21年	12,035	347	350	360	334	フィリピン 20%
	22年	11,675	326	331	328	321	愛知 17%
	23年	11,793	336	349	335	328	山梨 7%
	24年	10,410	364	380	371	348	石川 7%
	25年	11,166	319	342	318	306	
	5ヵ年平均	11,416	338	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	11,000	310	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は輸入、愛知、山梨中心。国内物は燃料費の高さや、生産者、作付面積の減少などにより、平年を上回る入荷は見込めない状況。 入荷量は前年並みで、価格は前年をわずかに下回る見込み。							
ア ー ロ ン	21年	306	553	604	541	510	愛知 47%
	22年	308	582	651	601	501	静岡 38%
	23年	252	677	695	662	674	高知 10%
	24年	250	568	578	580	558	
	25年	256	584	602	591	581	
	5ヵ年平均	274	591	626	593	560	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	250	580	650	580	550	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
主要産地は愛知、静岡。作付面積の減少で今後入荷量は減少していくことが予想される。それに伴い価格は今後高くなるおそれがある。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並みの見込み。							
す い か	21年	2,823	137	133	132	142	石川 24%
	22年	3,079	157	167	149	162	愛知 22%
	23年	2,548	196	209	212	182	新潟 16%
	24年	3,215	132	148	130	133	長野 15%
	25年	3,483	154	166	150	159	
	5ヵ年平均	3,030	154	163	153	155	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	26年見通し	3,300	160	180	160	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
主要産地は愛知、石川、長野。7月は石川産が増加してくると、一気に山場を迎え、入荷量のピークとなる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。							

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果実	21年	43,979	323	331	332	309	山梨 15%
	22年	43,187	338	356	352	314	山形 14%
	23年	37,118	380	400	400	345	千葉 12%
	24年	38,687	339	367	338	316	フィリピン 9%
	25年	39,489	362	398	351	340	(愛知産比率 1%)
	5ヵ年平均	40,492	348	-	-	-	前年及び本年の
	26年見通し	39,500	360	-	-	-	入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>すいか類、もも、メロン類中心に入荷する。ももは山梨中心で、受粉期の天候もよく順調な入荷を見込む。ぶどうは山梨中心に2月の大雪の影響を受け、大幅に入荷が減る見込み。メロンは青肉の千葉産タカミ、山形産アンデスが中心、いずれも生育良好。他にハウスみかん、おうとう等が入荷する。入荷量、価格ともに前年並見込み。</p>					
アーメロン	21年	750	590	639	576	538	静岡 48%
	22年	746	603	690	603	492	千葉 15%
	23年	606	741	749	770	680	茨城 12%
	24年	685	596	626	641	511	熊本 10%
	25年	714	668	750	683	535	(愛知産比率 4%)
	5ヵ年平均	700	640	691	655	551	前年及び本年の
	26年見通し	700	720	820	680	550	入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、千葉、茨城などからの入荷となる。6割を占める静岡は、生育良好で、上中旬がピークで6玉中心の出荷。千葉は肥大・外観も良好で中旬までの入荷。茨城は7月は少なめだが、順調な出荷となる。入荷量は前年並みだが、価格はメロン全体が好調で前年をかなり上回る見込み。</p>					
すいか	21年	14,653	153	145	156	157	千葉 23%
	22年	15,467	173	176	166	174	山形 19%
	23年	12,092	217	215	250	188	新潟 16%
	24年	13,933	147	154	146	142	神奈川 12%
	25年	14,661	170	180	172	159	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	14,161	172	174	178	164	前年及び本年の
	26年見通し	14,500	165	175	170	160	入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、鳥取、長野、新潟に加え後半山形からの入荷が本格化する。千葉は、生育がやや進み7月中旬までの出荷。鳥取も同じ傾向。新潟、長野は生育順調で7月中旬からピークとなる。山形は融雪も早く順調に生育し7月後半からピークとなる。入荷量、価格ともに前年並みと見込まれる。</p>					

# 切花・鉢花の7月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 6月26日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	21年	2,982	34	
		22年	1,882	66	
		23年	2,024	53	
		24年	2,295	30	
		25年	2,203	46	
	5ヶ年平均		2,277	44	
	26年見通し		2,200	44	
概要	愛知、三重、長野等から入荷。遅れていた長野産の入荷も始まるが、2月の雪害や春先の低温で作付は例年より少ないため多くはないため、色物については堅調な動きとろう。				
小 ぎ	実績	21年	2,924	20	
		22年	1,758	40	
		23年	1,843	32	
		24年	2,095	21	
		25年	2,542	23	
	5ヶ年平均		2,232	26	
	26年見通し		2,500	23	
概要	愛知、三重、長野、埼玉、岩手から入荷。遅れていた地場産に加え、高冷地産も出荷が始まり、入荷量も増加する。今後の天候にもよるが、8月出しの前進傾向もあり、入荷状況により重い展開が予想される。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	21年	1,106	37	
		22年	1,183	39	
		23年	1,260	31	
		24年	1,079	39	
		25年	1,210	45	
	5ヶ年平均		1,168	38	
	26年見通し		1,100	46	
概要	長野、北海道から入荷。今年は春先から6月までの低温などにより、若干遅れている。また、2月の豪雪により長野県全域で大きな雪害が発生したため、空き出しはなんとか一発切りなどで数の確保できそうだが、7月は2割位減少になる見込み。				
か す み	実績	21年	184	52	
		22年	104	69	
		23年	111	70	
		24年	114	66	
		25年	148	83	
	5ヶ年平均		132	67	
	26年見通し		140	80	
概要	長野、北海道、福島から入荷。遅れ気味の入荷で、前半は少なそう。業務中心の販売で価格安定。				

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	21年	462	124	
		22年	425	143	
		23年	468	125	
		24年	440	134	
		25年	519	125	
	5ヶ年平均		463	130	
	26年見通し		500	125	
概要	<p>オリエンタルは新潟、岐阜中心の入荷。カサブランカ中心で数量安定。LAは新潟、埼玉から入荷。前半は数量多く、販売は苦しい。鉄砲は高知、終了、愛媛、兵庫、長野からの入荷となる。入荷は少なく、引合いは強そう。</p>				
洋らん	実績	21年	372	77	
		22年	354	86	
		23年	375	85	
		24年	376	84	
		25年	423	94	
	5ヶ年平均		380	85	
	26年見通し		400	90	
概要	<p>愛知、静岡、鹿児島等と輸入物が入荷。6月は気温の高い日もあったが、全体には猛暑日も多くなかったが、7月には夏本番の暑さとなる。品質の差も大きくなり、価格差も大きくなるだろう。</p>				
ばら	実績	21年	1,024	44	
		22年	858	46	
		23年	810	44	
		24年	863	46	
		25年	856	55	
	5ヶ年平均		882	47	
	26年見通し		850	50	
概要	<p>愛知、岐阜、和歌山、愛媛、青森からの入荷中心で、三重は株休めの為出荷がなくなる。暖地は夜冷、パッド&amp;ファン等で暑さ対応をしてくる時期となる。入荷はスプレー、スタンダード合わせて、6万本前後を推移すると思われる。</p>				
枝も	実績	21年	1,308	43	
		22年	1,751	40	
		23年	1,733	43	
		24年	1,898	39	
		25年	1,961	44	
	5ヶ年平均		1,730	42	
	26年見通し		1,900	42	
概要	<p>愛知、静岡、岐阜等から入荷。新芽も固まり、出荷量は増加するが、新盆の影響により価格は低調だろう。人気によるトウダンは安定した価格で推移すると思われる。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	21年	29,520	1,032	
		22年	32,570	1,011	
		23年	24,971	1,034	
		24年	29,574	1,036	
		25年	30,943	975	
	5ヶ年平均		29,516	1,017	
	26年見通し		30,000	1,000	
概要	<p>入荷量は昨年並。6号がメインとなる。7・8・10号は引き合いありそう。また、6号での単価は厳しそう。                      昨年7月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(98.0%)、2位静岡県(1.3%)、3位三重県(0.5%)となっている</p>				
フ ア レ ノ ブ シ	実 績	21年	28,689	2,968	
		23年	30,131	2,819	
		24年	22,862	3,326	
		24年	27,350	3,315	
		25年	29,433	3,364	
	5ヶ年平均		27,693	3,147	
	26年見通し		29,000	3,276	
概要	<p>入荷量、平均単価は昨年並か。上旬より中元シーズンに入ってくるので、早めの企画提案をお願いしたい。また、気温の上昇で開花が早くなるのでツボミ多目の出荷を心がけて頂くことと、下旬からはお盆需要に入る為、白ミディー系中心に出荷増をお願いしたい。                      昨年7月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(58.5%)、2位静岡県(7.8%)、3位宮崎県(4.7%)となっている</p>				
バ ラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	21年	10,026	108	
		23年	11,929	97	
		24年	11,201	69	
		24年	9,341	144	
		25年	15,028	121	
	5ヶ年平均		11,505	108	
	26年見通し		14,000	114	
概要	<p>入荷量は昨年より減少か。梅雨時期～高温時期にかけて、花色が悪くなる為に販売に苦戦が予想される。                      昨年7月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位岐阜県(68.2%)、2位愛媛県(14.7%)、3位愛知県(9.6%)となっている</p>				

単位：鉢、円/鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジユ	実績	21年	1,929	1,157	
		22年	1,756	1,238	
		23年	2,015	898	
		24年	2,096	976	
		25年	2,408	647	
	5ヶ年平均		2,041	962	
	26年見通し		2,400	625	
概要	<p>昨年より作付けが減っている為、入荷減の予想。昨年同様に出荷時は固めをお願いしたい。暑くなってくるので軟腐病などが出やすくなるため、再度出荷時に検品もお願いしたい。</p> <p>昨年7月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(53.5%)、2位山梨県(15.8%)、3位長崎県(10.8%)となっている</p>				
スパファイ	実績	21年	14,688	286	
		23年	14,642	256	
		24年	13,325	267	
		24年	15,940	297	
		25年	14,607	274	
	5ヶ年平均		14,640	276	
	26年見通し		14,000	271	
概要	<p>入荷量は昨年並か。贈答用としての需要は年々少なくなっている。店頭は小鉢を必要としている。</p> <p>昨年7月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位三重県(51.6%)、2位愛知県(45.6%)、3位岐阜県(2.5%)となっている</p>				
ドラセナ類	実績	21年	36,704	544	
		23年	34,978	565	
		24年	29,975	696	
		24年	34,479	751	
		25年	30,614	847	
	5ヶ年平均		33,350	674	
	26年見通し		30,000	850	
概要	<p>入荷量は昨年並か。ユッカ、マッサン、コンシの定番を中心の入荷で中鉢がメインとなる予想。大鉢定番のマッサン、ユッカは若干減少といったところで、4号、5号は若干増加となっている。</p> <p>昨年7月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(72.2%)、2位沖縄県(16.9%)、3位鹿児島県(3.2%)となっている</p>				

# 主要農林水産物の輸出入実績（2014年）

## 1 輸入実績

品名	4月						4月までの累計					
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
	トン	%	千円	%	円/kg	%	トン	%	千円	%	円/kg	%
野菜(生鮮・冷蔵)	91,015	119.5	9,038,063	104.8	99	87.7	350,093	122	36,419,072	108	104	89
トマト	550	96.6	210,521	93.8	383	97.1	2,020	99	808,405	100	400	101
たまねぎ	33,677	163.7	1,765,674	113.5	52	69.3	131,397	164	7,370,082	125	56	76
にんにく	1,543	100.3	251,993	74.7	163	74.5	5,803	103	945,847	80	163	78
ねぎ	4,559	107.3	507,871	104.0	111	96.9	19,075	112	2,196,576	116	115	104
ブロッコリー	3,588	94.6	721,672	94.9	201	100.3	11,152	94	2,138,031	97	192	103
結球キャベツ	3,914	110.9	155,879	119.2	40	107.5	22,083	155	938,761	170	43	109
にんじん・かぶ	7,204	72.4	388,704	73.0	54	100.8	27,178	96	1,595,971	103	59	107
ごぼう	4,244	151.7	388,296	295.4	91	194.7	15,423	122	1,461,913	243	95	199
えんどう	63	44.7	19,853	38.9	315	87.0	272	31	98,648	32	362	104
アスパラガス	1,064	80.7	676,073	99.1	635	122.8	6,661	113	3,610,155	114	542	101
まつたけ	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	-
しいたけ	143	104.3	53,050	114.9	371	110.1	1,246	73	468,690	84	376	116
かぼちゃ	18,892	114.5	1,347,192	124.6	71	108.9	65,921	101	4,961,713	107	75	106
果実(生鮮・乾燥)	168,011	91.5	27,999,817	108.3	167	118.3	533,438	91	85,049,717	110	159	121
バナナ	89,739	101.3	8,148,668	110.3	91	108.9	297,956	97	25,173,069	108	84	111
パイナップル	17,288	88.7	1,290,261	109.3	75	123.2	49,251	87	3,518,135	110	71	126
レモン	2,920	79.2	565,784	111.1	194	140.2	13,768	98	2,756,572	154	200	157
オレンジ	8,198	54.2	1,318,004	79.7	161	147.2	28,179	62	4,476,818	90	159	146
グレープフルーツ	10,749	65.2	1,382,633	72.1	129	110.7	42,231	81	5,449,851	91	129	112
メロン	4,159	108.3	427,168	103.7	103	95.7	11,988	93	1,279,780	93	107	101
ぶどう	3,717	93.1	845,792	100.1	228	107.5	8,072	91	1,894,039	96	235	105
キウイ	12,427	144.4	4,490,055	165.3	361	114.4	12,554	136	4,530,560	158	361	116
いちご	3	69.8	3,325	77.6	1,108	111.2	11	33	13,396	41	1,187	127
切花(生鮮・乾燥)	3,021	107.7	2,708,350	122.7	897	113.9	14,216	93	12,212,735	103	859	111
鳥獣肉類	170,431	112.9	83,710,681	115.8	491	102.6	421,941	76	205,515,185	79	487	105
牛肉(くず肉含む)	45,704	99.9	24,445,626	104.6	535	104.8	104,301	69	55,840,539	75	535	108
豚肉(くず肉含む)	72,794	117.4	38,845,090	118.9	534	101.3	195,479	81	103,735,062	82	531	101
鶏肉	40,873	123.3	11,378,046	124.2	278	100.7	98,291	72	27,179,703	75	277	105
水産物(生鮮・冷蔵・冷凍)	164,017	96.4	106,652,943	110.1	650	114.2	359,265	64	245,308,265	78	683	122
まぐろ類	17,074	92.9	14,646,000	90.9	858	97.8	52,166	72	52,309,013	84	1,003	116
さば・さんま・あじ・いわし	5,730	143.5	1,323,511	169.7	231	118.3	25,920	89	5,773,142	113	223	126

## 2 輸出実績

果実(生鮮・乾燥)	439	147.0	198,638	146.4	452	99.6	7,745	104	3,218,616	119	416	114
うんしゅうみかん	7	134.0	5,266	148.9	752	111.1	242	176	135,277	199	559	113
りんご	408	148.5	152,679	153.9	374	103.7	7,238	103	2,709,701	115	374	112
なし	-	-	-	-	-	-	8	46	4,365	48	529	104
野菜(生鮮・冷蔵・乾燥)	-	-	274,830	125.0	-	-	-	-	684,318	111	-	-
緑茶	298	123.6	675,943	131.0	2,268	106.0	743	127	1,685,915	122	2,270	96

資料 農林水産省大臣官房統計部「農林水産物輸出入情報」

## 関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数 (全国 平成22年 = 100)				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	24年平均	99.7	96.1	103.3	99.0	101.4
	25年12月	100.9	105.4	104.9	101.3	106.7
	26年 1月	100.7	105.8	114.2	102.1	107.0
	2月	100.7	100.5	113.1	102.0	108.1
	3月	101.0	98.2	110.6	103.0	108.5
	4月	103.4	98.5	109.4	105.9	111.4
	愛知県	24年平均	99.7	98.0	105.3	99.1
25年12月	100.8	109.8	109.3	99.9	106.0	
26年 1月	100.4	108.4	120.9	101.2	106.9	
2月	100.5	103.7	116.6	100.8	108.5	
3月	100.8	100.3	114.9	102.9	108.2	
4月	102.9	102.3	117.2	101.1	107.9	

項目 年月		農業物価指数 (平成22年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	24年平均	101.8	111.1	99.0	102.8	100.9
	25年12月	109.5	102.5	118.9	109.3	116.5
	26年 1月	109.0	102.7	118.4	114.7	111.1
	2月	107.9	102.5	112.7	101.8	111.4
	3月	106.4	102.2	105.7	111.5	112.8
	4月	105.8	103.6	98.5	97.0	115.4

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」  
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一品種、「コシカ り」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
24年平均	2,112	147	178	629	457	297	160	350	229	558	665	165	564
25年12月	2,107	217	194	705	655	303	175	413	267	661	765	190	503
26年 1月	1,999	226	187	630	702	306	158	418	297	630	671	171	517
2月	2,016	207	167	627	545	306	156	391	305	588	624	172	485
3月	1,998	201	191	643	598	308	175	404	311	600	625	172	501
4月	2,047	154	187	562	413	322	161	466	310	503	645	149	523
品目 単位 年月	みかん	グレープフルーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウイフルーツ	緑茶(せん茶)	カーネーション	きく	バラ	豚肉(ロース)	牛肉(ロース)	まぐろ
	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1 本	100g	1 本	100g	100g	100g	
24年平均	582	283	352	177	211	805	534	153	168	306	225	797	398
25年12月	523	382	381	209	221	790	528	162	186	350	224	708	335
26年 1月	598	382	409	197	226	812	533	156	167	322	228	838	402
2月	601	356	437	117	232	770	533	157	161	326	227	795	399
3月	599	362	429	145	228	785	531	161	177	351	228	812	403
4月	344	441	152	248	809	537	170	176	351	229	844	405	

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



## いいともあいち運動って知ってる？

県内の消費者と生産者が今まで以上に**いい友**関係になる

Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

= もっと愛知県産品を食べよう (利用しよう)

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート 493  
平成26年7月発行  
農林水産部食育推進課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6421